

岡山県

せいきよう連 会報

謹賀新年

2020
新年号

CONTENTS

- 1 会長理事
- 2 岡山県知事
- 3 岡山県議会議長
- 4 日本生協連会長
- 5~6 副知事、議員、行政担当部署と懇談し
情報提供や意見交換を行いました
- 7 協同組合間の連携を進めました
- 8~10 会員生協の組合員、役員・職員が交流し、学びました
- 11~12 岡山県消団連、NPO消費者ネットおかやまとともに
- 13~15 会員生協トピックス
- 16~18 会員生協紹介
- 19 岡山県生協連紹介 SDGs





新年のご



岡山県生活協同組合連合会

会長理事

近藤 清志

新年あけましておめでとうございます。

行政並びに友誼団体のみなさまにおかれましては、日頃から生協に対しまして、ご指導、ご支援を賜り、心からお礼を申し上げます。

生協は、くらしと健康、いのちを守り、安心して暮らすことができる地域社会の実現をめざし、助け合いの組織として設立されています。

岡山県生協連は、県内11の生協により構成され、今年度創立60周年を迎えることが出来、これまで関わり、支えて頂きました多くの皆様に心より感謝申し上げます。

昨年も自然災害による大変甚大な被害が発生し、会員生協では被災地支援の取り組みが行われています。毎年のように発生する自然災害に対して、防災・減災の取り組みが益々大切になってきており、地域での人と人との結びつきを強めていくことが、重要な課題となっています。

くらしをめぐる、景気の低迷、消費支出が伸び悩む中、昨年10月には、消費税率の引き上げが行われ、さらに厳しさが増し、また、事業分野でも、影響が出てきています。

貧困と格差の問題は、引き続き社会全体の問題として、解決しなければならない課題となっています。社会全体でも、より深刻になりつつある地球温暖化やプラスチック廃棄物など環境問題、食糧自給率と農業従事者の減少、核兵器

新年のご挨拶

と平和の問題など次の世代に先送りできない課題が提起されています。

国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」では、「誰1人取り残さない」ことを原則に、貧困や不平等の解消、持続可能な経済・社会の実現等17の目標が決められ、私たち生協でも、その理念や事業、活動の多くが、重なり合っており、引き続き取り組みを進め、役割を担っていききたいと思います。

2020年になりました。これからの10年は、さらに高齢者の急増とともに、生産年齢人口の減少がおこり、私たちのくらしとともに事業への影響も出てきます。また、単身世帯の増加や高齢者の社会的孤立、介護問題、地方のインフラ機能の維持、一部では地域社会の崩壊など経済社会全般に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

誰もが安心して暮らすことができる地域、すべての生活基盤としての地域の持続的な発展は、私たちにとっても重要な課題です。

会員生協では、事業分野とともに、子どもや高齢者の見守り、居場所づくり、健康づくり、買物弱者対応、自立支援、地域でのつながりの構築など地域の課題解決にむけた取り組みが行われています。引き続き行政や他団体、協同組合間の連携を強め、地域社会づくりや持続可能な社会にむけ、さらには取り組みが進む1年になることを願い進めていきます。

最後になりますが、皆様にとりまして、この1年が実りある1年となりますことを祈念致しまして、挨拶とさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願い致します。

あいさつ



岡山県知事

伊原木 隆 太

すべての県民が明るい笑顔で暮らす 「生き活き岡山」を目指して

新年あけましておめでとうございます。

年頭に当たり、岡山県生活協同組合連合会の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

岡山県に甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨災害から1年半が経過しました。この間、県では、復旧・復興に全力で取り組んでまいりました。被災された皆さまが一日も早く住み慣れた地域で、普段の生活を取り戻し、希望をもって安心して暮らせるよう、被災地の課題やニーズを踏まえながら、「より災害に強く、元気な岡山」を目指して、引き続き全庁一丸となって取り組んでまいります。

また、去年は、復旧・復興とともに、「生き活き岡山」の実現に向けて、教育の再生や産業の振興をはじめ、さまざまな施策を展開してまいりました。

教育の再生については、知事に就任した7年前と比べて非行率が大きく改善しています。学力向上の面においても、全国学力・学習状況調査の結果で、中学校の国語・数学が全国平均と同等となり、課題であった家庭学習時間にも改善の兆しが見え始めるなど、これまでの取り組みの一定の成果が現れてきているものと考えています。今後も、子どもたち一人ひとりの状況に応じて、確実な学習内容の定着を図っていくとともに、海外留学の促進などによる、グローバルな視点を持って

国内外で活躍できる人材の育成を推進してまいります。

産業の振興については、去年も複数の新たな企業の立地が決定しています。夏には、県内企業の方々とともにアメリカ・シリコンバレーを訪問し、意見交換や展示会でのPRなどを行いました。引き続き、企業の「稼ぐ力」の強化や、県内就職の促進などに取り組んでまいります。

また、喫緊の課題である人口減少問題に対応するため、結婚を希望する男女の出会いの場の創出や移住・定住の促進などに一層力を注いでまいります。

今年は、新晴れの国おかやま生き活きプランの最終年度に当たります。プランに掲げる目標達成に向け、時代の潮流の変化や県民の皆さまのニーズを的確に把握し、さまざまな主体と連携しながら、より実効性の高い施策を着実に推進することで、好循環の流れをさらに力強いものにし、すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き活き岡山」の実現を目指して取り組みを加速してまいります。

夏には、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されます。本県ゆかりの選手の活躍を期待するとともに、活力と希望に満ちた明るい1年となりますよう、県民の皆さまと力を合わせて県政を推進してまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



新年のご



岡山県議会
議長

蓮岡靖之

令和2年の年頭に当たり、謹んでご挨拶を申し上げます。

県民の皆様には、新春を清々しくお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

近年、全国各地で地震や豪雨などの大規模な自然災害が相次いで発生し、本県においても、平成30年7月豪雨により、甚大な被害に見舞われました。

そうした中、本県における災害からの復旧・復興に向けた取組は、着実にその歩みを進めており、県議会といたしましても、被災された皆様が一日も早く日常の生活に戻れますよう、一層、力を尽くしていく所存でございます。

さて、私ども岡山県議会は、住民に身近な県議会を目指し、公明正大な議会運営にあっております。また、県民の皆様から直接選挙で選ばれる二元代表制のもと、行政に対するチェック機能を果たすとともに、県政における最終的な意思決定機関としての役割を担い、県民福祉の向上と県勢の発展のため邁進しております。

今日、我が国においては、超高齢社会を迎えるとともに、かつてない人口減少の時代を迎えており、本県においても、地域経済の停滞や地域活力

年頭のご挨拶

の低下が大きな課題となっています。

今後、一層進む社会構造の変化に対応しながら、本県の持続的な発展につなげ、住みよい地域を築き上げていくためには、本県の有する魅力や優位性など、発展可能性を最大限活用するとともに、議会と行政が互いに協調し、車の両輪として、各種施策の実現に向けた取組を進めていくことが大いに求められています。

私ども、県議会といたしましては、こうした皆様のご期待に十分に答えるため、本年も、防災対策の推進や、教育、企業誘致、交通基盤の整備、観光振興、農林水産業の振興、医療、少子高齢化対策など多岐にわたる県政の課題を見据え、議員一同、積極果敢にチャレンジしてまいりる所存です。県民の皆様、企業、団体等の皆様におかれましても、引き続き、お力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

時代は、「平成」から「令和」に移り、本年は東京オリンピック・パラリンピックの開催も控え、新たな時代へと更に進んでまいります。

皆様にとりまして、新しい年が、輝かしいものとなりますよう、併せて、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



日本生活協同組合連合会
代表理事会長

本田 英一

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の役職員の皆様が、組合員のくらしや地域を支えるため、日々奮闘されておられることに心より敬意を表します。

全国の生協では、地域社会づくりの取り組みとして、地方自治体との見守り協定や地域包括連携協定の締結、防災・減災、健康づくり、子育て支援など様々な活動が組合員参加のもとで進められています。さらに、環境や人と社会に配慮した「エシカル消費」に対応した商品の普及、ユニセフ募金活動、フードバンク・フードドライブ、子ども食堂など「コープSDGs 行動宣言」に沿った取り組みも大きく広がっています。引き続き、協同組合・行政・NPO等の皆さんとのパートナーシップで、世界的な課題であるSDGsの達成に向けて貢献したいと思えます。

昨年は、10月1日に消費税が10%に増税されました。組合員のくらしは厳しさを増しています。人口減少・高齢化がますます進み、経済や産業、地域社会などさまざまな側面から困難な課題が生じると予測されています。私たちは生協の総合力を生かし組合員のくらしに寄り添い、これからも安心してくらしせる地域社会づくりをめざして、全国で事例を学び合い、取り組んでまいりましょう。

新年のご挨拶

核兵器廃絶を願う被爆者の声を届ける「ヒバクシャ国際署名」は、全国の生協では4年間にわたる取り組みにより256万人を超えました。本年4月には、国連でNPT再検討会議が開かれます。被爆者のみなさんと共に生協代表団を現地に派遣し、核軍縮・不拡散に関わる具体的な道筋や実効性のある措置が盛り込まれた合意文書の採択をめざし、さまざまな活動を行います。会議後も、報告会の実施、次世代への被爆の記憶の継承などを通して、核兵器廃絶を求める活動を粘り強く広げていきたいと思います。

2020年日本生協連第70回通常総会では「日本の生協の2030年ビジョン」と、その第1期中期方針を決定する予定です。引き続き全国の生協の皆様の積極的な論議への参加をお願いします。

最後に、この1年が皆様にとって実り多い年になりますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

副知事、議員、行政担当部署と懇談し

●岡山県菊池副知事との懇談【10月29日(火) 県庁応接室】

岡山県から、菊池副知事、くらし安全安心課倉森課長、今岡総括参事、藤原副参事に出席いただき、県生協連から、会長、副会長2名、組合員理事4名、事務局長の計8名が出席して懇談しました。

最初に生協から、生協の現況や、生協が大切に考えている活動として、SDGsに重なり合う活動や地域社会づくりの取り組みで役割発揮を進めていることなどについて報告をしました。



副知事から、SDGs は、少子高齢化や働き方改革など、別の切り口で取り組む必要を感じていることや「誰一人取り残さない」という理念は、県行政の仕事や役割そのもののすべてを指していること、また、他の小売業とは違う理念を持ち、組合員主体の運営で組合員が利用する生協こそが、持続可能な小売業として確立されていく必要があることなどのお話がありました。また、コープのエシカル消費の具体的事例や医療生協が進めている「すこしお生活」などの紹介も行き、意見交換を行う中で生協への理解を深める懇談を行いました。

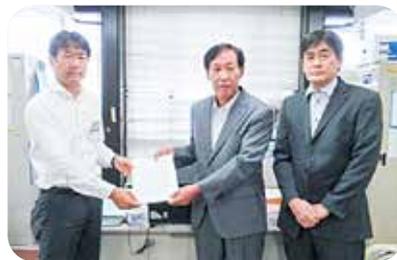


●岡山県へ「要望書」を提出【8月22日(木) 県庁くらし安全安心課】

岡山県に対する要望を取りまとめ、「要望書」として提出しました。

今年度は、①災害対策、災害支援 ②買い物弱者への対応 ③食の安全とエシカル消費 ④県内農林水産業の育成 ⑤食品ロス削減に向けたフードバンク活動への支援 ⑥環境保全、プラスチック排出量の抑制 ⑦健康づくり、健康寿命の延伸 ⑧地方消費者行政の推進の8項目の「要望書」としました。

くらし安全安心課の倉森課長に対して、「要望書」の内容について説明をしたあと、質疑応答を行い、要望についての理解を深めていただきました。



●岡山県行政との定期懇談【10月29日(火) 県庁会議室】



「要望書」に対する回答をふまえて県行政との定期懇談を行いました。

岡山県から、くらし安全安心課3名を始め、要望項目の管轄部署8名の計11名、県生協連から9名が参加しました。

懇談では、西日本豪雨災害で被災した自宅の約7割が建て替え希望となっていること、被災者の後期高齢者の医療費免除措置は、続けてあげたいが保険者が決めることであり、現在、延長は聞いていないこと、買い物弱者対応では、今までのハード面のみの支援から市町村と連携しながら支援する制度として、ソフト面での支援に取り組んでいること、ごみゼロ社会プロジェクトの会議ではレジ袋有料化は俎上になっていないことなど、質疑応答や意見交換を行いました。

●第35回 中四国生協・行政合同会議【8月28日(水) リーガルゼネスト高松】

『みんなが安心してくらす地域づくり～SDGsの視点で行政と生協が一緒に取り組めること～』をテーマとして、第35回中四国生協・行政合同会議が開催されました。

厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室田仲教泰室長から、生協と行政が一同に会し、情報共有をはかり、地域のこれからの課題に対して、目線合わせをしていくことはとても大切であること、人口減少、少子高齢化の進展、引きこもり、児童虐待など、人と人とのつながりが弱まっている中で、つながりを強固にするとともに、住み慣れた地域で住民一人ひとりのくらしや生きがいを創っていく地域共生社会の実現をはかること、生協は、その先駆けとなる組織であるなど、挨拶がありました。

3つの活動報告の後、グループ分散会では、全体を10グループに分け、「行政と生協が一緒に取り組めること」をテーマにワールドカフェ方式でディスカッションを行いました。一緒に取り組めることについて、参加者それぞれの想いを出し合い、深め合い、共有し合う中で、今後に向けての方向性が少しずつ明確になっていきました。このようなテーマについて、生協と行政が一緒になって意見交換できる場を持てたことなど、有意義な分散会となりました。



情報提供や意見交換を行いました。

●第31回 岡山県議会議員のみなさまとの懇談会【11月28日(木) オルガ談話室】

11月28日(木)の15時30分から17時30分まで、岡山県議会議員のみなさまと県生協連との懇談会を開催し、全会派から13名の議員に参加頂き、「安心して暮らせる地域社会づくりを目指した生協の社会的取り組み」をテーマに懇談を行いました。県生協連から12名が参加しました。

【ご出席頂いた県議会議員のみなさま】

- | | | | |
|-----------|------------------|------------------------|----------|
| ○自由民主党 | 上田 勝義 議員 (総務委員長) | 福島 恭子 議員 (環境文化保健福祉委員長) | |
| | 波多 洋治 議員 | 池本 敏朗 議員 | 太田 正孝 議員 |
| | 福田 司 議員 | 本山 紘司 議員 | |
| ○民主・県民クラブ | 中川 雅子 議員 | 大塚 愛 議員 | |
| ○公明党 | 増川 英一 議員 | 荒島 俊造 議員 | |
| ○日本共産党 | 須増 伸子 議員 | | |
| ○無所属 | 蜂谷 弘美 議員 | | |



上田 勝義 議員



福島 恭子 議員



波多 洋治 議員



池本 敏朗 議員



太田 正孝 議員



福田 司 議員



本山 紘司 議員



中川 雅子 議員



大塚 愛 議員



増川 英一 議員



荒島 俊造 議員



須増 伸子 議員



蜂谷 弘美 議員



近藤会長の開会の挨拶の後、各議員から、自己紹介を兼ねた挨拶をいただきました。続いて、県生協連の概況と県への要望書と回答の要点、購買生協と医療生協の特徴的な取り組みの報告の後、意見交換を行いました。議員のみなさまから、医療生協の取り組みと行政の地域包括ケアとの関わり、地域の子ども食堂と生協の取り組み、日生漁協との取り組み、無料低額診療の状況や判定基準、歯科の取り扱いについて、人口減少の中での生協の課題(目標)、エシカル消費や、JGAPの認証商品について、生協での働く人の確保、様々な課題と生協組織の中での対応について、高齢者が増える中で生協の宅配の状況、飼料用米の今後についてなど、多岐にわたるたくさんのテーマについて意見や質問があり、意見交換を進めていきました。生協の取り組みについて、議員のみなさまの理解を深めることにつながった懇談会となりました。



協同組合間の連携を進めました。

●協同組合連絡協議会で

コープフェスタ2019にブース出展し、
SDGsと協同組合をアピールしました。

9月28日（土）コンベックス岡山にて、おかやまコープ主催のコープフェスタ2019が開催され、全体で2万人の方が訪れ、終日賑わいました。

協同組合連絡協議会では、県生協連、JA岡山中央会、県漁連でSDGsと協同組合コーナーとして、SDGsに親しんでいただくための輪投げブースや「陸の豊かさを守ろう」と「海の豊かさを守ろう」の持続可能な開発目標に関連したブースを展開しました。



県生協連の「SDGs 輪投げ」



JA岡山中央会の「田んぼの役割、生き物」



県漁連の「瀬戸内の生きた魚」

●国際協同組合同盟(略称ICA)総会がルワンダ・キガリで開催されました。

ICA総会および関連会議（ICA-AP地域理事会、ICA男女共同参画委員会、ICA生協委員会等）が、10月12日から17日にかけてルワンダの首都キガリで開催されました。総会・全体会には、67カ国から約1,100名の協同組合関係者が参加し、日本生協連から、新井ちとせ 副会長、藤井喜継 専務理事、伊藤治郎 執行役員が代議員として参加しました。

本総会では協同組合が、いかにして気候変動や仕事の未来、移民問題や平和活動などグローバルな開発課題に取り組んでいくか、そして国連の2030アジェンダの中の、17の持続可能な開発目標の達成に協同組合がどのように貢献するかが議論されました。

また、日本のICA会員を代表して一般社団法人 日本協同組合連携機構（JCA）馬場利彦 代表理事専務が、日本の生協とJAの協同組合間協同の実践事例報告や、ICAで策定中の2030年戦略計画への提案を行いました。

最終日には開催地であるキガリの協同組合を視察し、アフリカの協同組合の発展と社会への貢献について学ぶことができました。



ICA総会の会場



ルワンダ・キガリの木工協同組合を視察

会員生協の組合員、役員・職員が交流し、学びました。

●県生協連創立60周年記念行事 上海視察研修【12月4日～6日】

創立60周年記念行事として上海視察研修を実施しました。この行事は、各会員生協に中堅職員層の参加を呼びかけ、未来を担う生協職員の見聞を広めるとともに、県生協連内での連帯・交流推進の場として位置づけ、視察研修を通じて、各会員生協の参加者どうしが横のつながりを強めることを大切にしました。

参加者は6つの会員生協から、中堅職員を中心に13名と県生協連の事務局2名の計15名が参加しました。

視察先の上海は、世界第2位の経済大国になった中国一の経済都市であり、最も急激に進化したIT(ICT)化の最先端を行っている中国市場の拠点です。今回の視察では、中国の代表的な流通の構造とキャッシュレス化が進む中国社会の実情を掴むことで、日本でも進みつつあるIT(ICT)技術やキャッシュレス社会に向けて変化を学ぶことなどを目的に以下の視察を行いました。



無人コンビニで参加者全員

視察内容

- | | | | |
|------------------|--------------------------|------------------------|--------------|
| ①上海の最新流通店舗の視察 | ●盒馬鮮生(フーマー) | ●超級物種(チャオウージョン) | ●City' Super |
| ②上海の無人化、省力化施策の視察 | ●Auchan欧尚 minute(無人コンビニ) | ●志達書店 天猫未来店(無人書店) | |
| | ●Robot..He(ロボットレストラン) | ●カルフル北新経店(顔認証決済) | |
| ③上海の新旧文化の視察 | ●豫園/豫園商城/上海老街 | ●スターバックスロースタリー(世界最大店舗) | |

特徴

- ・店舗から半径3キロまで、30分以内に1日1回分無料で商品を届けるサービスを展開。注文はアプリで行い、店内では、店員がスマホ片手に注文された商品を専用バッグに入れ、売場の端のクレーンにかけると、天井のレールを伝い、バックヤードの配送スタッフに引き渡されバッテリー付2輪車で配送されていた。徹底した効率化で30分以内に配達という脅威的な時間を生み出していた。
- ・商品代金の支払い方法は、ほとんどがキャッシュレス決済のAli payやWeChat payのアプリを使う。レジは無人で、自分で商品をスキャンし、アプリで決済する。自社アプリ経由での支払いでは、すべての売り上げデータに誰が買ったという顧客情報を紐づけることが可能になっていた。また、売場で商品のアプリ内決済ができ、そのまま商品を持ち退店できたり、新たな商品代金支払い方法として、顔認証決済システムが使える店舗もあった。
- ・どの店舗も生鮮、特に海鮮が非常に充実していた。購入した魚介類をその場で調理してくれるサービスがあり、加工賃も安いので、レストランで食べるより断然安く食べられ、その場で食べるという店頭の楽しさにもこだわっていた。
- ・無人コンビニは、スマホの会員アプリ画面を店舗の入口にある読み取り機にかざすとカギが開き、店内に入れる。商品をスキャナに通し、アプリ決済で支払い、出口でアプリの会員画面をスキャンするとカギが開けられる仕組み。
- ・無人書店は、顔認証で入店する。初回は、アプリをダウンロードして登録し、センサーカメラで顔登録を行えば、次からは、顔認証だけで入店できる。本の代金決済は、Just Walk out「無感決済」で本を持ち、出口から退出すると自動的にモバイル決済される仕組み。
- ・ロボットレストランは、アリババが手掛ける未来的なレストラン。中国では、ロボットとAIの活用で効率化と人件費削減を進めている。注文をスマホから行うと、人間の代わりに電子レンジほどの大きさのロボットがウェーターとなり、テーブル横のレーンを走り、料理を運んでいた。

感想

・老若男女を問わず、ほとんどの人がスマホ一つで決済を行うこと、顔認証や指紋認証で個人を識別する個人認証が進んでいることなどによって、無人化や省力化が進んでいることやアプリや電子データ活用による各種のサービスが提供されているなど、失敗を恐れず、新しい技術や取り組みに果敢にチャレンジする中国の姿に感銘を受けました。現地ガイドの中国人の崔さんの言葉「中国人は何でもすぐチャレンジします。日本人は石橋を叩いて渡らないです。」が強く印象に残りました。



無人のレジ



店内でアプリを体験



ダイナミックな鮮魚売場



配達用のバッグ



無人書店入口の顔認証カメラ



ロボットレストラン

会員生協の組合員、役員

●県生協連・会員生協役員研修交流会【1月11日(金) オルガホール】



岡山大学大学院 青尾謙氏

県生協連・会員生協役員研修交流会を開催しました。

岡山大学副理事、岡山大学大学院ヘルスシステム総合科学研究科講師で岡山大学のSDGs推進企画会議委員の青尾謙氏が「岡山からSDGsに貢献する一響きあうパートナーシップに向けて」と題して講演を行いました。SDGsの理念や歴史、日本での取り組み動向、岡山大学のSDGs推進の取り組み、岡山での課題や30年後の岡山県などの報告に加えて、岡山にとってのSDGsが「今あるもの」と「あるべき姿」をつなぐ「架け橋」となることや岡山のめざすべき未来像について説明がありました。さらに、「SDGsがブームであるかのように、個々の企業や団体が私たちはSDGsの活動をやっている」と誇るだけでは駄目で、取り組んだ結果、何が変わったのか、あるべき姿に近づいたか、課題がどれだけ解決したかを社会に示していくことが大切であること、そのためにも、みんなで取り組む「協奏や共創」が必

要なことを強調されました。また、これから生協に求められることや生協と岡山大学と一緒に進められる課題などについてもふれられ、社会における良き変化を起こす地域における異なるセクターの強みを活かす協働とそれを可能にする場を共に作りたいと展望を示し結ばれました。

あらためて岡山にとってのSDGsの持つ意味やみんなで実践し、課題を前進、達成させることこそSDGsの取り組みの本質があることを学び考えることの出来た研修となりました。

続いて、「大原美術館 その歴史と作品」と題して、大原美術館学芸課長の柳沢秀行氏の講演を行いました。大原美術館開館までの経緯や「美術館は生きて成長していくもの」という考えを実践した第二創業期、第三創業期、そして現在、進められている多様な事業として作家支援や教育活動の経緯や意図などを語り、最後に大原美術館の使命宣言として5つの使命を強調されました。長い歴史を持つ大原美術館の歩みや魅力、その使命などについてしっかり学ぶことのできる講演でした。



●組合員活動交流集会【2月8日(金) オルガホール】

「誰もが安心して暮らせる社会をめざして」をテーマに、組合員活動交流集会を開催しました。

開会挨拶の後、「進む少子・高齢社会とこれからの地域づくり—地参・地笑の暮らしづくり—」と題して、美作大学社会福祉学科教授の小坂田稔先生の講演が行われました。最初に、日本全体と岡山県での高齢化の進行状況や認知症、ひきこもり、子どもの状況などを示しながら、社会孤立問題や権利侵害問題、貧困問題などの多様な課題・問題があり、地域における生活ニーズが多様化、複雑化、重複化している中で、とりわけ社会的孤立の問題が重要課題であることを強調されました。そのことに対する地域づくり・地域支援として、必要となる様々な社会資源の連携・協働・協奏活動など地域でのつながりが重要であることをいくつかの事例をもとに説明されました。また、国が示している「地域共生社会」の実



美作大学 小坂田稔氏

現に向けて、地域

における住民主体の課題解決と包括的な支援のイメージや改定「社会福祉法」がめざしていることについて説明の後、最後に各地域で進められている取り組みとして、地域の問題把握と共有化、問題解決に向けての取り組み検討、地域で支えあう仕組みづくりなど、一つひとつの事例について紹介され終了しました。小坂田先生の極めて実践的な研究や地域での豊富な活動経験の中から、住み慣れた地域でいきいきと暮らしていくための地域づくりや地域支援のあり方などについて、学ぶことができました。



職員が交流し、学びました。

●「ヘルスチャレンジ2019」に取り組みました。健康づくりのきっかけづくり、毎年、参加者が増加!

「ヘルスチャレンジ」は、生活習慣を見直すことで、健康寿命を延ばすことや健康づくりのきっかけとすることを目的に、誰もが気軽に取り組める企画として、県内の医療生協を中心に各会員生協全体で取り組んでいます。県生協連の主催となった2012年からの参加者は、右の表のように毎年伸び続けています。2019年は、さらに、県内のJA女性組織協議会など、他の協同組合の皆さんにも参加の呼びかけを広げました。



岡山県主催

おかやま健康づくりアワード2019「健康フェア」に出展

9月22日(日) JR岡山駅前広場にて、岡山県が2018年から実施している「おかやま健康づくりアワード」の「健康フェア」に、県生協連としてブース出展し、ヘルスチャレンジなど、岡山県で健康づくりを推進していることをアピールしました。岡山医療生協の協力を得て、足指力測定も行いました。



出展団体

岡山県、県歯科医師会、県愛育委員連合会、県栄養改善協議会、県国民健康保険団体連合会、健康保険協会岡山支部、県健康づくりセンター、県栄養士会、健康運動指導士会岡山支部、岡山大学病院、3B体操協会、日本生命、SOMPOひまわり生命、岡山県生協連

参加者の推移

2012年	4,157人
2013年	4,716人
2014年	5,698人
2015年	7,444人
2016年	10,136人
2017年	11,519人
2018年	13,286人

●コープフェスタ2019 健康チェックコーナー【9月28日(土) コンベックス岡山】



9月28日(土)、コンベックス岡山にて、おかやまコープ主催のコープフェスタ2019が開催され、全体で2万人の方が訪れ、終日賑わいました。

岡山医療生協、倉敷医療生協、津山医療生協の県内にある3つの医療生協は、健康チェックコーナーを担当し、7つのブースの出展を行い、たくさんの方が参加しました。

血管年齢測定、骨密度測定、足指力測定、血圧・BMI測定、子ども体力測定、すこしお生活、医療生協紹介ブースの7つのブースでは、多くの方が訪れ、とても好評でした。また、すこしお生活のブースでは今年も岡山県栄養士会と連携しました。



血管年齢測定



血圧・BMI測定



すこしお生活

岡山県消団連、NPO消費者ネットお

●第33回 岡山県消費者大会【10月31日(木) オルガホール】



小熊 竹彦氏

岡山県消費者団体連絡協議会(県消団連)主催の第33回岡山県消費者大会を「憲法について、わかりやすく、学びましょう」をテーマに14団体242名の参加で開催しました。

主催者を代表した岡山県消団連近藤清志代表幹事(県生協連会長)の開会挨拶の後、第一部の講演では、生協総合研究所の理事で事務局長の小熊竹彦氏から、「憲法って何?憲法改定のポイントは?」をテーマに、憲法とは何か、憲法改定の焦点について、クイズも交えてわかりやすく解説していただきました。①立憲主義②第9条と自衛隊③緊急事態条項の3つのキーワードがポイントとなっていて、ここを理解することが大切であると話され、立憲主義の本質は、憲法によって国家の権力を制限するという考え方であり、国民が国家を縛るためのルールであるということ、憲法論議の争点となっている点として、2015年に集団的自衛権の行使容

認、後方支援の範囲拡大、PKOでの武器使用が可能になるなど自衛隊の性格が根本的に変わったことを念頭におき、第9条の改定論議を考える必要があること、また、緊急事態条項も争点となっており、内閣総理大臣の権限でほぼ無制限に緊急事態が宣言でき、内閣に権力を集中することは、世界や日本における過去の暴走事例から見ても、憲法の基本的なあり方に関わる重要な問題として考える必要があることを話されました。最後に、今後に向けて、大切なこととして、①学習すること②話し合うこと③意思表示をしていくことの3点を強調されました。

第二部の公演では、芸人でパントマイマーの松元ヒロ氏による、ひとり芝居「憲法くん」を鑑賞しました。軽妙な語り口とパフォーマンスで笑いの絶えないステージの中、最後の演目として演じた「憲法くん」は、憲法の本質や憲法を守ることの大切さがひしひし

と伝わる、力のこもった感動的なステージとなりました。

松元 ヒロ氏

今まで、学校で少し勉強したぐらいだった「憲法」について、「わかりやすく」、かつ「楽しく」学ぶことができ、また、一人ひとりが憲法改定について、自分なりに考え始めるきっかけになったのではないかと思う消費者大会になりました。

最後に、岡山県消団連幹事でおかやまコープ全体理事の金高さおりさんより、第33回岡山県消費者大会の大会決議案が提案され、満場一致の拍手で確認された後、消費者大会を終了しました。



●消費者被害撲滅キャンペーン【5月19日(日) シティライトスタジアム】

5月19日(日)13時からシティライトスタジアムにて、岡山県主催の消費者被害撲滅キャンペーンが開催されました。当日は、「消費者被害撲滅デー」として、消費者ネットおかやまと岡山県消団連から4名が参加しました。岡山県の職員とともに、ファジアーノ岡山公式戦の入場者らに、消費者被害のことや消費生活センターのことなどを尋ねるアンケートを実施して、グッズ(ファジアーノコットンバッグ)を配布するなど、消費者被害撲滅をアピールしました。また、ファジアーノ岡山の選手による啓発CMやモデルの近藤千尋さんによる競技場での消費者ホットライン188のPRなどを行い、若者を中心とした多くの県民に普及啓発を行いました。



●消費者月間講演会【6月1日(土) オルガホール】



6月1日(土)14時30分よりオルガホールにて、岡山県消団連と消費者ネットおかやまの主催、岡山県との共催で、「消費者月間講演会」が開催され、72名が参加しました。

消費者ネットおかやまの河田英正理事長の講師の紹介を兼ねた開会挨拶の後、岡山県消費生活センター上野和也所長の報告では、平成30年度の相談件数は8,419件で70歳以上の相談が一番多くなっていること、商品・サービス別相談件数では、架空請求と放送・コンテンツ等情報通信関

係の相談が多く、全体の3割以上を占めていること、また、昨年発生した西日本豪雨災害に関係する相談として、高額な修理工事の契約など106件が寄せられたことなどの報告がありました。

次に「高齢者の消費者被害と改正消費者契約法」と題して、全国ジャパンライフ被害対策弁護団連絡会団長で



県消費生活センター
上野和也所長

弁護士の石戸谷豊先生から講演をして頂きました。まず、相次ぐ高齢者の大型集団被害として、最近問題となったジャパンライフとケフィアの2つの事件を紹介しながら、共通して「元本保証」で有利に見えることでだまされてしまい大きな被害につながったことなど、「元本保証」のリスクについて強調されました。次に高齢社会と消費者契約法という

テーマで、広い意味からすると、消費者契約法は21世紀の超高齢社会のインフラ整備と位置づけられることやそもそも高齢化について正しく認識すること、認知症と意思決定の関係などについて説明がありました。続いて、消費者契約法の改正の経緯や2016年と2018年に改正された部分について、つけ込み型類型や取消・無効の範囲が拡大した内容について詳しく説明がありました。また、現在、消費者庁に「消費者契約法改正に向けた専門的技術的側面の研究会」を設置し、さらなる消費者の利益を守るための検討を進めていることの紹介があり講演を締めくくりました。少し難しい表現や説明もありましたが、改正された消費者契約法について我々消費者自身が理解を深め、学ぶ機会となりました。



石戸谷豊弁護士

●見守り力アップ講座

消費者ネットおかやまは、岡山県の委託事業として、消費者被害防止に関する意識と知識を持った人材や地域の見守り活動に参加する実践力を備えた人材を養成することを目的に、「見守り力アップ講座」を開催しています。特に健康やお金、孤独の不安を抱え、判断力の低下が避けられない高齢者等に付け込んだ悪質商法や特殊詐欺などの被害が絶えない今日、これらの未然防止と発生後の対処法は、地域の見守り活動にとって欠かせない取り組みのひとつであり、高齢者と直接接する民生委員や福祉関係の方々も多く参加しています。



会員生協トピックス

倉敷医療生協 《まちに出かけて健康づくり（笠岡支部）》



笠岡支部では、人を集めるのではなく、人のいる場所に出かけて健康づくりをとの発想で、11月16日（土）に地元のショッピングモール内で「健康のつどい」を開催しました。

健康チェックや「あいうべ体操」、バイオリンと鍵盤の生演奏での「健康歌声タイム」などを楽しみながら取り組みました。買い物に来られた方が次々に立ち寄り、リクエストも出るなど、83人も楽しい健康づくりのひと時となりました。

《オーラルフレイル予防学習が大好評》

2019年度の取り組みで重点をおいている「オーラルフレイル予防」の学習会が話題を呼び、4月からの開催が40会場890人（12/9時点）に達し、支部や班だけでなく、地域の民生委員さんからも学習の問い合わせが届いています。学習会に参加した方から周囲の方へこの学習会の良さが伝え広まっています。



《地元の親子が大集合 水島支部健康まつり》

水島支部では地元の子育て世代の方と子どもが参加できる健康まつりをという視点で、今までの健康まつりと内容を変えて、「子どもらの健やかな未来の育ちを学びあう」との演題で、福山市立大学教育学部准教授小野方資（まさよし）氏の講演会と、ものづくりなどが楽しめる「ちびっこ広場」や「駄菓子コーナー」を準備しました。

事前に地元の小中学校や近隣町内にチラシを配布してお知らせをしました。当日は「小学校でもらったよ」とチラシを手にした親子がぞくぞくと訪れ、200人近い参加となりました。今までと視点を変えた取り組みで、今までにない参加者の広がりがありました。



三井造船生協 《「第13回三井生協ふれあいまつり」開催》

11月10日（日）、13回目となる「三井生協ふれあいまつり」がレクレーションセンターミーティングホールと本部店店頭にて開催され、組合員やご家族、地域の皆さまなど幅広い年代の方々にご来場いただきました。



会場には、チャリティバザーや三井生協紹介コーナー、サークル活動紹介コーナーなどのブースが

出展され、ステージでは、園児による鼓笛隊演奏をはじめ、吹奏楽演奏、フラダンスショーや、アジックショーなどのイベントが行われました。終盤の紙飛行機大会では、専用の紙で作った思い思いの機体で飛距離を競い合い、大変盛り上がりしました

今年も多くの方々楽しんでいただき、三井生協ふれあいまつりが地域に浸透し、地域とのつながりが増してきたことを実感できました。



岡山県学校生協 《エンジョイライフセミナーに76名ご参加いただきました》

組合員の皆さまに充実した退職後の生活に備えていただくため、教職員共済と合同でエンジョイライフセミナーを開催いたしました。

日時 2019年12月1日（日）10:30～14:20

会場 おかやま西川原プラザ2F 第1会議室

将来への備え……… 知っておきたい退職後の社会保険と税
日々の健康……… 電解水素水整水器のご案内
知ることが安心……… 退職後の住まいのご提案
癒しのご提案……… よりよく眠る為のヒント6カ条 など
※ペア宿泊券などが当たる抽選会も実施



おかやまコープ 《電子マネー機能付組合員証「COPUCA（コプカ）」導入》

店舗では、組合員の期待に応じて、7月から電子マネー機能がついた「COPUCA（コプカ）」を導入しました。

あらかじめ、お金をカードにチャージ（入金）し、お買い物時に支払いができます。組合員からは「小銭を取り出す手間がなくなった」、「レジで並ぶ時間が短くなった」と好評です。また、おかやまコープは全店で「キャッシュレス・消費者還元事業」の対象店舗に認定され、電子マネーコプカのお支払いで、5%のポイントが還元されます。

現在、「セミセルフレジ」の導入もすすめています。



コプカで支払う組合員
(コープ大福)



デザインも組合員投票で決定

《被災地支援を継続しています》

西日本豪雨災害で被災された方々の情報交換、交流、リラクゼーションの場を提供することを目的に、組合員が地元の社会福祉協議会と協力して、コープの店舗を使ったカフェを6月から開催しています。「ほっとカフェ」（コープ総社東）、「藤の花サロン」（コープ倉敷北・コープ北畝）では、参加者同士の交流やつながりが広がっています。



写真洗浄を行う組合員（倉敷市連島）

また、生活支援サービス「は〜と♡ふるネット」倉敷エリアの組合員が、倉敷市連島で「写真洗浄」のボランティア活動を6月から定期的に行っています。

「写真洗浄」は、西日本豪雨で被災した写真を持ち主から預かり、洗浄してお返りする活動です。「力仕事は難しいけれど、私たちも何かお役に立ちたい」という思いが、ボランティア団体「真備町写真洗浄@あらいぐま岡山」の活動をお手伝いさせていただく形で実現しました。



「藤の花サロン」で思い思いの時間を
楽しむ参加者（コープ倉敷北）

岡山県労済生協（こくみん共済coop岡山推進本部） 《「まちいろフェスタ」を共催》

11月13日（水）、倉敷市真備町の真備かなりや保育園と清願寺にて「まちいろフェスタ」を共催しました。このイベントは2019年6月30日（日）開催した「まびフェス」でボランティアをされた真備町の地域住民の方が企画・実行をし、開催してきました。

保育園ではキッズぼうさい迷路や負傷者搬送体験など、清願寺では煙体験ハウスやビニール合羽制作など、防災・減災のワークショップを通じて地域へのお役立ち活動を実践してきました。当日は保育園児も含めると約200名の方に参加いただき、大盛況に終了できました。



岡山医療生協 《親子健康まつり「どんぐりフェスタ」に527人の参加》

岡山医療生協では11月3日（日）、2年に一度の親子健康まつり「どんぐりフェスタ」を開催しました。「どんぐりフェスタ」は子育て世代の保護者と子どもたちを中心にしたまつりで、子どもたちが楽しめるさまざまな企画を用意し、隔年で開催しています。

「どんぐりフェスタ」ではスタンプラリー、医療体験、紙芝居、工作、マジックショーなど子どもたちが楽しめる企画をたくさん用意し、会場の「コムコム会館」は普段と違った小さな子ども達の歓声につつまれました。家族連れの職員の参加も多く、普段とは違う「お母さん、お父さんの顔」でした。バザーコーナーも盛況で、昼前にはすべてのお店が完売になりました。



会員生協トピックス

岡山大学生協 《受験生サポートの対応》

岡山大学生協では毎年、さまざまな受験生の不安を解消するために、生協学生委員会 C.C.C!のメンバーを中心に、JR岡山駅での道案内や津島キャンパス・鹿田キャンパス内の道案内・受験生相談の対応を行っています。

また、受験生に付き添って来られる保護者様を対象とした「受験時保護者説明会」を開催し、岡山大学生協の事業のご案内や、合格発表後の「入学準備」や「一人暮らしのお部屋探し」への不安を少しでも解消して頂けるようにアドバイスを行っています。

更に最近では、受験生段階でアパート・マンションの「合格発表前予約」をご希望される方も年々増えてきており、岡山大学生協でも推薦・AO入試、前期日程入試、後期日程入試の多くの受験生からアパート・マンションの「合格発表前予約」の受付を早期から実施しています。



津山医療生協 《組合員バス企画》

11月24日、組合員バス企画で、今回は姫路市の太陽公園と、たつの市のそうめんの里に行きました。太陽公園には、石のエリアでは凱旋門やモアイ像、自由の女神といった、世界の有名な建造物や像などが石で再現されていました。城のエリアでは、ドイツのノイシュワンシュタイン城 (Schloss Neuschwanstein) を石で3分の2のスケールで再現した「白鳥城」がありました。



城の中には様々なトリックアートがあり、指定された場所から、例にならった格好だけでなく思い思いの格好で写真を撮影しました。

そうめんの里ではそうめん作業の簡単な実演を見たり、そうめんを試食したりしました。

ちょっとした世界旅行気分を味わえ、おいしいそうめんの試食もでき、とても楽しい企画となりました。



就実生協 《入学準備説明会を開催》



12月7日(土)に大学・短大の2020年度新入学生と保護者の方を対象とした、今年度第1回目の入学準備説明会を開催しました。開催挨拶のあとは、アイスブレイクを行うことでアットホームな雰囲気となり、双方向のコミュニケーションが活発になりました。

その後は、複数の先輩学生が自分の大学生活を紹介し、新入生や保護者の質問に答え、高校生活とは異なる大学生活について具体的にイメージができる企画内容となっています。

また、キャンパス内ツアーや学食体験の他にも、生協加入手続きや食育ミールカード、生協がお勧めするパソコンセットのご紹介なども行い、参加者アンケートでも大変良い評価をいただきました。3月末までに計9回を実施します。1回ごとにきちんと準備しつつ、回を重ねることに充実、発展させていきたいと思ひます。



グリーンコープ生協おかやま 《グリーンコープ運動》

新たな年を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

私たちの想像を超える被害をもたらした「西日本豪雨」から2年が経ち、支援活動も徐々に形を変えてきました。

その中、「いつもあたたかい地域の縁側として愛される場所になるように」と、組合員が主体となって真備町有井で進めてきた「居場所」の開設が目前となっています。

地域のみなさんが元気になれるように、そして、ここを拠点として、地域に寄り添い、組合員と一緒にグリーンコープとして出来ることをしっかりとサポートしたいと思っています。

事業面では、あたりまえの安心・安全、そして、あたりまえの生活が守られる社会になるように、グリーンコープ運動を推進力として、人と人のつながりと助け合いの心を大切に、より地域に根ざした身近な生活協同組合を目指したいと考えています。



会員生協紹介 (設立期順)

岡山県学校生活協同組合

代表者名 理事長
鳥越 範博

組合員数 19,071 人

出資金 170,317 千円

供給高 307,669 千円

活動エリア 岡山県内、保・幼・小・中・高等・特別支援・大学職域



設立登記年月日
1949年9月10日

役員数 (常勤) 1人 (非常勤) 16人 (監事) 3人

職員数 (正規) 7人 (内2人出向)
(パート) 4人 (内2人出向)

概略

岡山県学校生活協同組合は、県内公私立の保育園・こども園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学、教育委員会に勤務される方とその職場を退職された方を対象とした職域生協で、組合員より拠出された出資金により運営される事業体です。

学校生協は、1949年に発足以来、組合員の皆さまとともに幾多の困難を乗り越えながら、今日まで発展してきました。今、私たちを取り巻く状況は、行先不透明で不安をかかえたまま推移しています。こういう時だからこそ「平和や暮らしを守る生協運動」の果たす役割がますます大切になってきています。今後とも、学校生協事業を魅力あるものに変革しながら、生協本来の活動に邁進し、組合員の福利厚生を担う事業体として更に活動を続けてまいります。

三井造船生活協同組合

代表者名 理事長
福井 直和

組合員数 21,456 人
(2019年10月末日現在)

出資金 526,034 千円
(2019年10月末日現在)

供給高 3,727,070 千円
(2018年度)

活動エリア 玉野市、岡山市、倉敷市



設立登記年月日 1950年11月

職員数 (正規) 98人 (2018年度末)
(定時) 72人 (2018年度末)

概略

創立以来『人とひとのつながりを大切にし、健康で心豊かなくらしの実現を目指します』の理念のもと、現在では職域ばかりでなく、地域組合員のくらしを支える共同相互組織として、店舗(玉野市内に5店舗)及び訪問販売や宅配弁当、そして、三井E&S構内にミニ売店と、共同購入での宅配事業や、葬祭事業、福祉介護事業、リフォーム事業、旅行業、共済事業など幅広く展開しています。

また、組合員活動では1956年に結成した家庭会(地域組合員組織)を中心として環境問題や福祉活動その他安全な商品の提供にも積極的に取り組んでいます。中でも家庭会チャリティーバザーは第1回目の1979年から連続41年間、毎年その収益金を玉野市の社会福祉事業へ寄贈(累計で1,880万円)など、まさに地域社会にしっかりと根ざした活動となっています。

これら、事業及び組合員活動の歴史を礎に、組合員による・組合員のための生協、安心・安全をキーワードとした生協、また、人と環境にやさしい地域社会づくりに貢献できる生協をめざします。

くらしの中に、そして地域の中に生協がある。

~こういう生協をめざして~

岡山医療生活協同組合

代表者名 理事長
高橋 淳

組合員数 68,168 人
(2019年11月末現在)

出資金 1,907,583 千円
(2019年11月末現在)

供給高 8,108,636 千円
(2018年度)

活動エリア 岡山県下一円



設立登記年月日 1952年10月21日

役員数 (常勤) 8人 (非常勤) 25人 (監事) 5人

職員数 (常勤) 723人 (定時) 327人

概略

岡山医療生協は、いのちと心大切にします。
1952年に設立された当組合は、現在2つの病院、4つの診療所、11の介護事業所、1つの歯科診療所、健診センターで構成され、健診から急性期医療～在宅まで、地域のみなさまの様々な要望にお応えしています。

当組合では、設立当初より「いのちの平等」を掲げ、人権を大切に医療・介護をすすめています。そのため、入院時も部屋代を頂かないことや、2012年1月には2つの病院で無料低額診療事業(患者さんの負担能力に応じて、窓口負担分を無料又は低額にする制度)を開始し、拡大する貧困への対応を強めています。

岡山医療生協では国連の決めたSDGsに則り「岡山医療生協SDGs行動宣言」を決定し、6つの行動目標を掲げ、岡山医療生協がこれまで培ってきた活動や技術を新たに組み直し、改善し、組合員、地域住民のみなさまに新しい価値が提供できるようにしてまいります。

これまで健康チェックの値は各々の組合員で把握し、自分で管理把握していましたが、昨年からは班会やまちかど健康チェック、まつりなどの行事で行った健康チェックの値を本部でデータ管理できるシステムを導入し、希望される方にはいままでの健康チェックの値を確認することができるようになりました。組合員以外の方にも好評で、これをきっかけに加入される方もいらっしゃいます。

今年にはさまざまな年代層の要求を汲み上げ、また、医療生協のいいところを自分で語る組合員を増やし、岡山医療生協のリニューアルに向けて活動をさらに発展させてまいります。

倉敷医療生活協同組合

代表者名 代表理事 高羽 克昌

組合員数 66,329 人

出資金 1,682 百万円

供給高 102 億円

活動エリア 岡山県全域



設立登記年月日 1955年2月28日

役員数 (常勤) 11人
(非常勤) 17人 (監事) 5人

職員数 (常勤) 813人 (非常勤) 484人

概略

倉敷医療生活協同組合は、総合病院水島協同病院を中心に、3病院、2医科診療所、7歯科診療所、3訪問看護ステーション、老人保健施設に加え、倉敷市の高齢者支援センター、助産院など多彩な機能を持った26事業所を有して、関連する社会福祉法人・株式会社・NPO法人とともに、医療・介護・福祉と健康づくりのネットワークを展開しています。

2013年(創立60周年)、組合は将来を見据え、医療の質の更なる向上や災害にも強い安全・安心な事業所づくりを提起し、2014年の玉島協同病院、2015年の阿新歯科診療所の移転新築、2017年2月にはコープリハビリテーション病院・老健あかねを移転新築、2018年12月に児島歯科診療所を移転新築しました。また、2018年7月の豪雨災害で全壊した真備歯科診療所も、2019年の1月7日から再開することができました。

水島協同病院や玉島協同病院では、災害時を想定した訓練を倉敷中央病院はじめ、消防署や地域の医療機関とも連携しながら取り組んでいます。

また、地域では「助け合い・支え合い」「人と人とのつながり」を大切にすため、自治体・他法人・社協・ワカズコープ・地域組織・町内会等と連携・協力し、居場所づくりとしてのサロン活動や子ども食堂、あらゆる機会を活かしてイベントや街角で健康チェックに取り組んでいます。生協ならではの「班会」を地域に開放し、フレイル予防・オーラルフレイル予防やまちづくりの輪を広げています。

引き続き、行政や地域の諸団体と協力し、組合員、地域住民の切実な思いに寄り添い、「人が人として大切にされる社会」をめざして活動を強めます。

会員生協紹介 (設立期順)

生活協同組合おかやまコープ

代表者名 理事長 平田 昌三
 組合員数 342,590 世帯
 (2019年11月末日現在)
 出資金 103.1 億円
 (2019年11月末日現在)
 総事業高 405.1 億円
 (2018年4月1日~2019年3月31日)
 活動エリア 岡山県一円 (定款エリア)
 設立登記年月日 1956年6月13日



役員数 (常勤理事) 5人
 (非常勤) 14人
 (常勤監事) 1人 (監事) 4人
 職員数 (正規) 411人 (定時) 1,510人 (2019年11月末日現在)

概要
 おかやまコープは、岡山県内の4割を超える34万世帯が加入する県下最大の消費者組織です。ビジョン「つながり育む 笑顔広がる 豊かな暮らし」を掲げ、持続可能な社会の実現をめざして様々な取り組みをすすめています。宅配・店舗での購買事業を中心に、共済事業、福祉事業を行っています。安全・安心な商品の提供や産直・地産地消の取り組みをすすめる、循環型農業を応援しています。

商品、食育、食の安全、環境、ふくし、子育て、平和、国際協力支援など、多彩な組合員活動にも取り組み、行政や諸団体とのネットワークを通じて、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりに参加しています。

子会社コープピーアンドエスでは、旅行、飲食、葬祭や保険などの斡旋事業を行っており、コープファームおかやま、ハートコープおかやまでは、耕作放棄地を活用して障がい者を雇用したトマト生産を行っています。

ヤンマー農機製造岡山地区生活協同組合

代表者名 代表理事
 世一 寛行
 組合員数 377人
 出資金 377千円
 供給高 18,532千円
 活動エリア 職域 (工場内)
 設立登記年月日



1965年1月25日

役員数 (常勤) 0人 (非常勤) 9人
 職員数 (正規) 1人 (定時) 0人

概要
 当生協は新岡山港に程近い、YANMAR 農業機械の総合機械メーカーとして2013年4月に新たにスタートしたヤンマー農機製造内で活動しております。

組合員数約370名と限られた範囲での活動ですが、組合員のニーズを反映した、きめ細かい対応をめざして活動が出来るよう努力していきたいと思っております。

地球温暖化の影響を受け、異常気象により様々な災害が起こっている中、わたしたちにできることを考えながら、活動していきたいと思っております。

毎年恒例の近隣地域の方々を招いての夏祭り、一年間を通じての地域の公園や遊歩道のクリーン活動など、これからも地域とのつながりを大切にしていきたいと思っております。

岡山県労働者共済生活協同組合

代表者名 理事長
 二宮 卓志
 組合員数 16万5370人
 出資金 11億7563万3000円
 契約件数 6万9896件 (42万8213件)
 契約口数 33万9826口 (5049万8792口)
 給付件数 2,884件 (2万8195件)
 給付金総額 1億2381万9500円
 (115億0719万3703円)



活動エリア 岡山県一円
 設立登記年月日 1961年4月1日
 役員数 (常勤) 2人 (非常勤) 21人
 職員数 1人 (24人) ※ ()内は連合会実績

概要
 岡山県労働者共済生活協同組合 (こくみん共済 coop 岡山推進本部) は、営利を目的としない保障の生協として、岡山県と厚生労働省の認可を得て事業運営を行っています。

当生協は、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を理念とし、組合員の皆さまの「安心とゆとりある暮らし」をめざした活動を行っています。

「組合員のこくみん共済 coop」「正直なこくみん共済 coop」「努力のこくみん共済 coop」を信条としながら、組合員の暮らしを守るため、防災・減災の取り組みをすすめる、組合員や地域社会からの信頼に応えられるよう努力し続けます。

津山医療生活協同組合

代表者名 理事長
 井ノ上 義明
 組合員数 5,276人
 出資金 76,809千円
 供給高 382,306千円
 活動エリア 定款区域
 (主には津山市と津山市周辺町村)



設立登記年月日 1980年8月12日
 役員数 (常勤) 1人
 (非常勤) 17人
 (監事) 4人
 職員数 (正規) 24人
 (定時) 26人

概要
 津山医療生協は、患者・利用者の権利を尊重し、親切でやさしい医療・介護をこころがけ、地域の人達の命と健康を守るために全力を尽くしています。

高齢化社会が進み、医療や介護、暮らしをめぐる生活の環境が変わる中で、診療所・訪問看護ステーション・ケアプランセンター・ヘルパーステーション・デイサービスなど保健・医療・福祉 (介護) のネットワークをひろげています。

特に在宅診療では365日安心・安全の医療・介護サービスを行っています。

また組合員との協同による地域での健康づくりを進めています。

会員生協紹介 (設立期順)

岡山大学生協同組合

代表者名 理事長
桑原 敏典

組合員数 14,749人

出資金 266,540千円

供給高 2,056,920千円

活動エリア 岡山大学津島・鹿田キャンパス



設立登記年月日 1995年2月20日

役員数 (常勤) 2人
(非常勤) 28人
(監事) 4人

職員数 (正規) 21人
(定時) 158人

概略

岡山大学生協同組合は岡山大学の学生・教職員の手によって1994年12月に設立されました。

大学生協は、大学の福利厚生事業の担い手として、学生・教職員組合員に良い品をより安く、より便利に提供するとともに、教育・研究の場としての大学にふさわしい様々な活動を行っています。

岡山大学では、津島キャンパスのピーチユニオン・マスカットユニオン・ピオーネユニオン及び鹿田キャンパス医学部記念会館という大学の福利厚生施設の中で、構成員のニーズにもとづいて、購買・書籍事業、旅行事業、食堂事業、共済事業、住生活支援事業など幅広い事業に取り組んでいます。

就実生活協同組合

代表者名 理事長
丹生 裕一

組合員数 1,635人
(2019年11月末現在)

出資金 32,605千円
(2019年11月末現在)

供給高 142,017千円
(2018年度)



活動エリア 就実学園 (現在は、大学・短大キャンパス内でのみ営業)

設立登記年月日 2016年8月5日

役員数 (常勤) 0人 (非常勤) 15人 (監事) 4人

職員数 (正規) 1人 (定時) 26人

概略

就実生活協同組合は、就実大学・就実短期大学の学生・教職員が中心となって設立されました。組合員である学生及び教職員が自主的に運営に参加し、大学の生活環境を改善・向上させ、学習や教育及び研究活動をより充実させるために、「学生にとって実りある居場所づくり」を目標に立て、組合員の皆さんの要望を聞き、その要望に多く応えられる担い手として、様々な活動を行っています。

現在は、大学、短期大学の福利厚生施設の中で食堂、喫茶、売店、書店などの事業を行っており、少しずつサービスの拡大、改善を行い加入・利用は伸長しています。また、seedS (シーズ：生協学生委員会) の活動も発展、拡大しており、新入生の入学準備サポートや交流会の実施、日常のキャンパスを盛り上げるお楽しみ企画や、今後の活動のヒントになる調査活動などを行っています。今後もキャンパスライフの充実を目指し、seedSの活動を通じてキャンパス内のコミュニティの発展や、教育・研究の支援ができるように事業を発展させていきたいと思っています。

グリーンコープ生活協同組合おかやま

代表者名 理事長
飯村 美智子

組合員数 5,157人
(2019年3月20日現在)

出資金 284,550千円
(2018年度末)

供給高 904,797千円
(2018年度)



活動エリア 岡山市・倉敷市・赤磐市・瀬戸内市・総社市及びその周辺地域 (共同購入と個配事業)

設立登記年月日 2003年8月13日

役員数 (常勤) 1人 (非常勤) 10人 (監事) 3人

職員数 (職員) 17人 (定時職員) 16人

概略

グリーンコープ生協おかやまは、安心・安全な食べものを求め、環境問題や地域福祉、平和の取り組みなどに関心ある消費者が集まり、2003年8月に設立しました。

無・減農薬で栽培された青果・農産物や遺伝子組み換えされていない飼料で育てた畜産物、なるべく添加物を使わずにつくった加工品など「いのちを育む食べ物」を、組合員に届けています。また、生産者やお取引先メーカーとの「顔の見える関係」を大切にすることで、組合員世帯の食の安全を守るとともに、国内の農畜産業を守っていく取り組みとして位置づけを進めています。

今の時代、経済と社会不安が大きくなっていく中で、一番大切な事は「信頼」です。組合員と地域の人々との「助け合っていく。支えあっていく。」をつくっていくことができる生協を目指して参ります。

県生協連会員生協名簿

会員生協名	住所	電話・FAX
岡山県学校生活協同組合	〒703-8258 岡山市中区西川原 255	TEL 086-272-4033 FAX 086-272-4034
三井造船生活協同組合	〒706-8501 玉野市玉二丁目 5-5	TEL 0863-31-5566 FAX 0863-31-7459
岡山医療生活協同組合	〒703-8288 岡山市中区赤坂本町 2-20	TEL 086-271-0943 FAX 086-271-7854
倉敷医療生活協同組合	〒712-8025 倉敷市水島南春日町 13-1	TEL 086-444-4321 FAX 086-448-4150
生活協同組合おかやまコープ	〒700-0026 岡山市北区奉還町 1-7-7	TEL 086-256-2511 FAX 086-256-2585
岡山県労働者共済生活協同組合	〒700-8569 岡山市北区駅元町 6-26	TEL 086-254-2155 FAX 086-254-2500
ヤンマー農機製造岡山地区生活協同組合	〒702-8004 岡山市中区江並 428	TEL 086-276-8111 FAX 086-276-8152
津山医療生活協同組合	〒708-0872 津山市平福 546-1	TEL 0868-28-2057 FAX 0868-28-3835
岡山大学生協同組合	〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1	TEL 086-251-7207 FAX 086-256-0445
グリーンコープ生活協同組合おかやま	〒700-0973 岡山市北区下中野 311-113	TEL 086-805-2566 FAX 086-805-2569
就実生活協同組合	〒703-8258 岡山市中区西川原 1-6-1	TEL 086-201-2250 FAX 086-201-2259

